



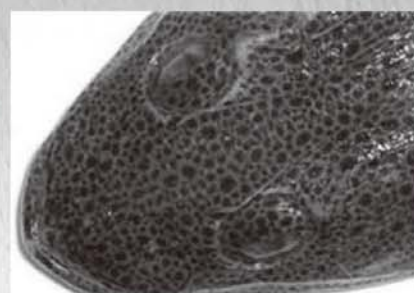
北村秀行の “チャーマス・ブレイン” “Char Mas. Brain”

連載 第131回

コチの仲間

2012年頃から茨城県海域で、6～7月になるとマゴチがよく釣れるようになった。今回は、ここ数年注目されているコチの仲間のうち、ヨシノゴチとマゴチを解説してもらった!

解説●北村秀行



●ヨシノゴチの頭部
小斑点が密にある!



●マゴチの頭部
小斑点がない!

コチ科 (Platycephalidae) は全18属68種。コチ属は全18種。学名のないヨシノゴチ、マゴチは18種のうちに入っていない。

◆ヨシノゴチ (吉野鱈)
学名: *Platycephalus sp1*
〔「コチ属の1種、No.1」という意味でコチ科コチ属の魚までは確定している〕

英名: Bartail flathead
伊豆半島・伊東沖以南の南日本、東シナ海、黄海、渤海、水深1~200m以浅の砂泥底の海底に生息する。水深50m前後に多いが、100m以深にも生息する。房総半島沖にも生息しているのではないだろうか? 動物食性が強く、底生甲殻類や小鱼類、ヒトデなどを捕食する。

体色は白っぽい褐色で、背面に小さな褐色斑が密にある。眼がマゴチよりも大きく、下

顎先端は尖る。胸鰭の前半分は茶褐色の斑点があり後半部分は暗色。最大全長60cm前後。産卵期は南で早く3~5月頃から。北では遅く5~6月。海水温17度で、58時間で孵化する。雄と雌では成長速度が違う。3歳で雄は30cm前後、雌は40cm前後に成長する。

コチは敵に遭うと飛び跳ねて逃げる様子を「踊る」として、「鯛」の文字で表す。牛の尾の体形なので「牛尾魚」とも書く。

コチ類の大型個体はすべて雌で、雌性先熟の性転換を行うとされてきた。マゴチおよびヨシノゴチについて、性別と耳石による年齢査定を研究調査した。その結果、雌雄で成長差があり、雄は高年齢になっても大きくならないことが明らかとなり、雌性先熟をしないことが判明した。少

2012年頃から茨城県海域でマゴチがよく釣れる!

2012年頃から鹿島灘日立沖で、生きたマイワシをエサにしたヒラメ釣りで、マゴチの良型がたびたび釣れた。震災後、福島県では漁業を自粛して、刺網をしてないせいなのか判断がつかないがマゴチがよく釣れる。

長い砂浜が続く茨城県から福島県にかけてマゴチが多く生息している。水深が浅く、メリハリのないフラットなポイントが多く、マゴチがまとまっていないので釣魚のターゲットにならなかった。

ところが、マダイを狙うエビエサのテナヤ釣りで、マゴチを船中30匹釣る船もあった。乱獲をした感じが6、7月の2カ月続いた。定期的に食べべておいしい時期で「日照りゴチ」と呼ばれる。しかし、産卵期なので乱獲すると産卵する親魚がいなくなり、後々に影響するかもしれない。

30年以上前に大津港、小名浜港の堤防に渡り、ヒラメ、アイナメ、ソイ(キツネメバル)などを狙った。そのとき

房総半島沖には生息しているヨシノゴチ

し古い魚種図鑑では雌性先熟(最初は雄で成熟して繁殖に参加した後、雌に性転換して繁殖に参加する)を記してあるが間違いなので、図鑑を買う時は要注意だ。イネゴチ属のイネゴチ、アネサゴチ属のアネサゴチは雌性先熟が確認されている。

学名: *Platycephalus sp2*
英名: Bartail flathead

津軽海峡、北海道・函館沿岸でも捕獲されている。鹿児島県・種子島までの太平洋沿岸、日本海沿岸、瀬戸内海、東シナ海の水深30m以浅の砂泥底、砂泥底に生息する。幼魚・若魚期には汽水、河口域にも進出する。

体形は縦扁し、頭部が著しく縦扁する。両眼の間隔はかなり広く、下顎の先端は丸みを帯びる。尾鰭には黄色、白色、黒色のバーコードのような縞模様がある。また背部体側には黒褐色帯が何本かある。

ヨシノゴチは本種に良く似

マゴチが多く釣れた時期があった。6月の終わり頃だったと思う。プレスボーニングなのか、ボトムがズルズルと感じる所でアタリがよく出たのを覚えている。その後、秋にトライしたがマゴチは釣れなかった。

日本沿岸の「コチの仲間」は分類学的に「？」が多い

日本沿岸のコチの仲間は分類学的に多くの問題がある。マゴチにもヨシノゴチにも学名が未だに定まっていないのだ。

日本沿岸に生息しているマゴチ、ヨシノゴチは、*Platycephalus indicus* (英名: Bartail flathead) と同種とされていた。和名で「コチ」と呼ばれていたが、生態や形態の違いがあり別種とされた。

また、「コチ」にはシロゴチとクロゴチと呼ばれる2種いるのが判明。シロゴチを標準和名「ヨシノゴチ」とし、クロゴチを標準和名「マゴチ」とした。

また南西諸島には *Platycephalus indicus* が分布しているが、標準和名がないの

ているが、下顎の先端がとがり、体側の黒褐色帯はなく、表面に茶褐色小斑が密にあり区別できる。

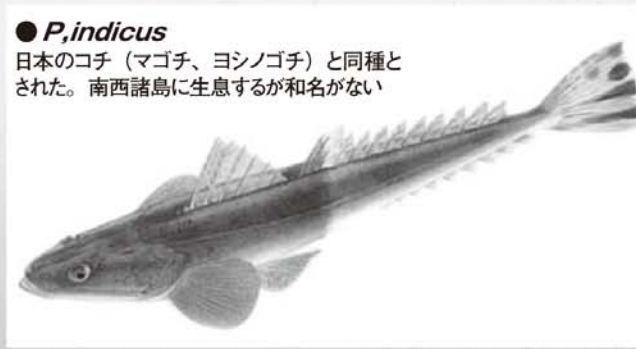
最大100cm、3.5kg。通常は50cm前後が多く釣れる。

肉食性で小型魚類、甲殻類、頭足類を主に捕食している。ベテランは「日照りコチ」を略して「照りゴチ」と呼ぶ。梅雨が明け、夏の日照りが続き始める頃が旬になる。

釣りではメゴチ、マハゼ、アジ、イワシ、シロギス等の小型魚をライブベイトとして使い、狙う。最近ではエビエサやワームをテナヤに付けて狙うのが流行っている。漁では

が不思議だ。地方名で「クチヌイユ」と呼び、マゴチだと言う釣り人もいる。調べる価値はありそうだ! 上手いこと *P. indicus* の標準和名の命名権をとれるかもしれない?

コチの仲間はカサゴ目コチ亜目・全4科24属90種が同定されている。DNA鑑定が進み、まだまだ新種が増えそう。コチ亜目で和名があるのは現在28種登録されている。10cmの小型から100cmの大型までさまざまなサイズがいるが、そのなかで釣り人が気になるであろう種を解説していく。



● *P. indicus*
日本のコチ (マゴチ、ヨシノゴチ) と同種とされた。南西諸島に生息するが和名がない

延縄、刺網、底曳網などで漁獲される高級魚だ。

産卵期は初夏で6~8月頃まで続く。海水温20度で、36時間で孵化する。雌雄で成長に差がある。雄は3歳で成長が止まり、雌はその後成長する。ヒラメの成長とよく似ている。

普通の魚と若干違い、骨を処理するのに手間がかかるが、肉は白身で、刺身、薄造りが特に美味。唐揚げ、塩焼き、など様々な料理に使用できる。中骨や頭骨は潮汁で良い味が出る。面倒な時は内臓を取り、ぶつ切りにしてポン酢で食べる寄せ鍋が最高だ。

●マゴチの成長

年齢	雄の成長	雌の成長
1歳	20~21cm	21~22cm
2歳	27~28cm	32~34cm
3歳	30~31cm	41~42cm
4歳	成長が止まる	45~46cm

●Profile
北村秀行 きたむらひでゆき
1946年9月8日生まれ。
“チャーマス”の愛称で親しまれ、この人なくして今の日本のソルトウォーターアーフィッシングの発展はないと言っても過言ではない。魚やタックル、そして自然など、釣りに関係するあらゆる物事に対する豊富な知識から導き出される卓越したフィッシング理論には定評がある。クラブビッグワズ代表。tailwalk スーパーバイザー